

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2002 3月号
3/1

平成14年3月1日発行
No.814



語



教



見えてきた、
未来へのうねり。

ろ



育



Ⅲ

う



を





教育論議が 大きなうねりに

「静かなる教育論議」。

それは、市政の大きな柱として小田原市が始めた、教育改革の一つのかたちです。

ゆっくりと時間をかけて、いつでも、どこでも、

だれもが未来を見据えて教育を論議していく。

そんな社会の姿が、小田原の未来を担う子どもたちに、

「豊かな心」と「生きる力」を育てていくのです。

今、教育論議が、各地で大きなうねりとなって動き始めています。

新しい流れが

4月からいよいよ、毎週土曜日と日曜日が休みとなる完全学校週5日制が始まります。これは、学校が休みの日を利用して、学校・家庭・地域など、社会全体で子どもたちを育てていこう、という新しい試みです。市内でも、週5日制を前に各地で動きが始めました。この新しい取り組みに期待が持たれます。

忘れちゃ困る、お父さんの力!

富水小学校「オヤジの会」

各地の学校では、保護者が中心になって、子どもたちが楽しい学校生活が送れるよう、さまざまな活動をしています。これがPTAの活動です。しかしこのPTA、なぜか「お母さんたちの活動」というイメージがあるようです。そんな疑問から立ち上がったのが、富水小学校の「オヤジの会」。日ごと忙しいてなかなか子どもたちの学校に行く機会のない「オヤジ」たちが、ここでは「やれはできるんだ」とばかりにパワーを發揮しています。学校の遊具のペンキ塗りをしたり、竹馬を作ったり子どもたちに遊びを教えたりと、特技や趣味を生かした活動をしています。



2年目を迎えた昨年は、46人ものお父さんが、この会の呼びかけに手を挙げてくれました。お父さんたちが中庭の池を掃除してきれいにすると、6年生がこの池の壁に絵を描いて卒業していききました。子どもたちとの共同作品に、「オヤジ」たちは感激しました。

「二人の子どもだけの父親ではなく、富水小みんなのオヤジとしてかわつていこう」と、そんな思いでお父さんたちは頑張っています。

自分の力で映画を上映

「子どもと生活文化協会」の子どもたち

世界を舞台に活躍している生物物理学者、サーフアト、野生チンパンジー研究者、版画家といった1人のさまざまな生き方をインタビュと映像でつづり、地球の未来のあるべき姿を問う感動的映画「地球交響曲(ガイアシンフォニー)第四番」の映画を市民会館で自主上映した子どもたちがいます。



・NPO法人子どもと生活文化協会(2)の子どもたちは、この映画を見て、自分が地球の大きなエネルギーの中で生かされていることを感じました。そして「自分たちにも何かができるはず」と考え、自主上映を思いついたので。小学生から大学生まで、およそ30人のメンバーは、この映画が持つ意味や、自分が見て感じたことなどをつづったチラシを作り、宣伝活動を行いました。新聞記者に協力をお願いするために、記者発表も自分たちで行いました。

子どもたちは、「この映画の上映にあたって、自分で考えて行動したことが、人生においてとても貴重な体験になったと思います」と話してくれました。上映会の収益の一部は、アフガン難民救済のため寄付する予定です。

※NPO：営利を目的とせず、ボランティアなど社会的な使命を達成することを目的とした組織

ここで紹介した取り組みは、ほんの一例にすぎません。しかしこのように、小田原市ではいろいろなところでうねりが起き始めています。

広報おだわらでも、「教育連載・地域とともに生きる子どもたち」のページで、このようならぬ事例の数々を紹介しています。静かなる教育議論が、今後どんどん新しい風を吹き込んでくる、そんな予感がします。

寄せられた意見カードを分析する

静かなる教育論議に数多くの意見が寄せられています。皆さんが、家庭や地域、職場などで議論していただいた結果寄せられた意見カードは、平成13年10月までに約3,000件にのぼりました。その意見を分析してみましよう。



題点を洗い出し、どうすれば良くなるか、その方策や方向性を提言しているものも多く見られます。子どもにとってモデルとなる大人や社会にも問題がある、という認識に立った意見も寄せられています。

寄せられた意見は、小田原市総合計画「ビジョン21おたわらの大きな柱」に分類すると、「家庭教育の充実」に関する意見が18%、「青少年健全育成のための社会環境づくり」が15%、「新しい教育方針の推進」が7%、「学校外活動の充実」が6%、「子育て環境の整備」が5%となります。

市では、これらの意見の中から施策に反映すべき項目について検討・研究を進める一方で、寄せられた意見カードをもとに、皆さんの教育への考えや傾向などの分析を、大学（専門機関）に依頼してきました。分析作業はまだ途中ですが、作業に携わっている人に、その感想を伺いました。

小田原の教育を良くするために

意見の中には、個人的な問題に対する解決策を求めるものもありますが、大多数の意見からは、小田原のまちや教育を良くしていきたいという思いが感じられます。問

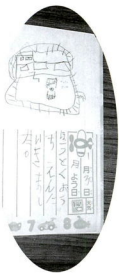
おおむね妥当な内容の意見が多いように思いますが、妥当に思える意見同士が対立しているものもあります。たとえば、「独立した人間を育てるために、子どもの意思や自由を尊重する」と「社会性を身につけさせるために、社会ルールや道徳を大切にすること」を優先するなどは、方法や方向性が対立する可能性があります。しかし、いずれの意見にも理がありますので、あえて「免を追い一方が良いのかもしれない」「自らに由る」という自由を止し身につければ、自分に責任が持てるようになりま。社会ルールを破ったときの自分の責任を考えられれば、社会ルールをきちんと守るようになります。

もし、力による強制的な方法で社会ルールを身につけさせようとすると、責任感が育ちません。隠れてルールを破るなど、かえってマイナスになることも考えられるのです。



「子供は大人の父である」
The Child is the Father of the Man
フーバー・スミス

教育用とび箱



「静かなる教育論議」

教育シンポジウム 開催!

～あの「泣き虫先生」山口良治さんがやってくる!～

教育総務課 ☎33-1671

当時無名だった京都市立伏見工業高校ラグビー部を高校ラグビー日本一に導いた、あの「泣き虫先生」山口良治さんをお迎えしての教育シンポジウム。テーマは「熱き感動を求めて」です。

また、静かなる教育論議で寄せられた意見カードの分析結果の報告も行われます。

市内のいたるところで語られ、論じられていた「教育」。この機会にみんなで考えましょう。



やまぐち よしはる：ラグビー元日本代表として歴戦し、輝かしい活躍の根っからのラグーマン。赴任当時、荒れていた伏見工業高校ラグビー部を汗と涙で立て直し、幾多の全国優勝に導いた。その模様は、テレビドラマ「スクール・ウォーズ」をはじめ、平成12年11月にはNHKの人気番組「プロジェクトX「ツッパリ生徒と泣き虫先生」」で放映され、全国に共感と感動を呼んだ。

日時 3月28日(木)
13:00～15:30(開場12:30)
場所 中央公民館ホール

内容

- 13:00～ 井戸端会議の意見カードから見た小田原の教育(分析報告)
- 13:50～ 講演 「熱き感動を求めて」
- 講師 京都市立伏見工業高校ラグビー部総監督 山口良治さん

定員 200人・先着順

申込方法 「教育シンポジウム申込」・参加者全員の住所・氏名・連絡先(電話番号またはEメールアドレス)を、電話・Eメール・ファックス・はがきで連絡。
(託児希望の人は申し込み時にその旨記入)

申込 3月8日頃から、〒250-8555 小田原市教育委員会教育総務課 ☎33-1671
Eメール: kyouso@city.odawara.kanagawa.jp ☎32-7855

皆さんからいただいた静かなる教育論議への意見は、このように分析され、施策化を図って、生かされていきます。意見カードの分析結果は、3月28日(木)に開かれる教育シンポジウムで報告します。
また、寄せられた意見は、広報おたわらなどで公開していきます。これからも、静

かなる教育論議にあなたの意見をお寄せください。
●広報おたわらでは、寄せられた意見カードを紹介する連載「教育、私ほこう思う!」静かなる教育論議にそぐそぐ「意見」を、毎月1日号に掲載しています。あわせてご覧ください。(この号では9ページ)

新たな展開 その1

「学校教育推進計画」の策定

教育を取り巻く環境や現状をあらゆる面から分析するために、教育に携わる各界の有識者10人による「学校教育懇話会」を平成12年11月に設置しましたが、その懇話会からの提言書がまとまり、昨年12月に市教育委員会へ提出されました。提言書には、「小田原の特色を生かし、学校教育に活用していく必要がある」「異なる文化と共生する能力を身につける学習を推進する」「生きがいや将来の夢をばぐくむ」「学校自らが情報発信し、積極的に声を聞く姿勢が大切である」などの具体的な方針が挙げられています。いずれもこれからの小田原市の学校

教育のあり方についての指針となるような内容になっています。

懇話会座長の齋藤多喜雄さんは、

「小田原における21世紀の教育のあり方について、それぞれの立場から真摯に討議してきました。今、

世界が、そして日本の社会が大きく変わるうとしています。そうい

った変化に対応するためには、教育の問題は最重要課題です。提言

の一つ一つに各委員の思いが込められています。この提言書が小田

原の教育を改革することの一助となれば」と語ります。

今後はこの提言書を受けて、「学校教育推進計画」の策定を進めていきます。

新たな展開 その2

教育関係個別プランへの反映

皆さんから寄せられた意見は、学校教育推進計画など、市の教育施策を決めるプランに反映していきます。また市民各界各層から出された意見の中で施策に反映することが望ましいと考えられるものは、具体的に予算化し、実施していくよう考えられています。

なわ、皆さんからの意見を取り、あらゆる機会に教育論議を起こしていくために現在行っている取り組みは、次のようなものがあります。

■子ども・未来市民会議

市長を座長として、市内の各分野で活躍している団体の代表が参加する会議です。昨年11月に開催した第1回会議では、参加者がそれぞれ立場や視点から教育をどうえ、これからの教育について活発に意見を交わっていただきました。今後幅広く分野の人々に参加していただき、それぞれの活動や井戸端会議の議論を通して浮かび上がったさまざまな教育に関するさまざまな

教育委員長(右)に提言書を手渡す学校教育懇話会座長(左) (平成13年12月10日)



市長随想

私の水物語

文 小澤良明

我が母なる川酒川は、余り知られていないが、日本でも一、二を争う「低流量」を誇る川、即ち流量が常に安定していることではトップクラスの川なのだそうである。水系の豊かな地下水に支えられ、足柄平野はまるで水盤の上に浮かぶ美しい島のようである。古くからこの「島」に住んだ「足柄原人」達は、水の恩恵を代々受け継いできた。私の御先祖さんも何代も何代も前からの「島」に土着してきて、いわば私も水に生きた「足柄原人」の末裔である。

私は市内井細田(今の扇町)に生まれた。今と違って当時は地名の通りの印象で、家の裏手は一面の田んぼで、畦道を歩いて行けばほんの数分で酒川川べりに着いた。途中にある一間半ほどの幅の小川には、いつもきれいな水が豊かに流れて水草がユラユラ揺れていた。と水底をのぞきこんでいると、鮎やはやの銀鱗が縦横無尽に踊っていた。暇さえあれば川の中に入っで竹でできた「ブッテ」や「モジリ」で小魚やうなぎ獲りに熱中していた。酒川でも良く泳いだ。親の注意も忘れて、水中の砂利採取の穴にはまって何回か溺れそうになったこともある。いずれもあの辺りに育った同年代なら誰しもが歩んできた古き良き子供時代である。こうした水と子供の頃からの濃密な関わりが鮮烈に脳裏に焼き

さまざまな課題について市民の皆さんにも考える場にしていききたいと考えています。

②子ども・未来井戸端会議

子どもに関係する団体などから意見を寄せていただくための会議です。この会議は主に5つに分業され、それぞれの会議の中で、教育について話し合われています。

①地域教育、井戸端会議

地域における教育力の向上などを中心に議論します。(青少年問題協議会、子ども会連絡協議会など)

②家庭教育、井戸端会議

家庭における教育力の向上などについて議論します。(社会教育委員会、PTA連絡協議会など)

③街かど教育、井戸端会議

各種懇談会の場で議論します。(ほっと懇談会、地区懇談会など)

④子どもと大人の教育、井戸端会議

子どもが参加する事業の際に議論します。(中学校区フェスティバルなど)

新たな展開 その3

完全学校週5日制に対応する

完全学校週5日制は、学校・家庭・地域社会での教育や生活をおして、子どもたちに生きる力をはぐくみ、健やかな成長を促すものです。これまでも教育委員会で、子どもたちが休みとなる第2・第4土曜日に、さまざまな体験から自分自身で課題を見つけ、考え、判断し、問題を解決する能力を身につけてもらうための取り組みを行ってきました。スタディグループ、児童文化行事、映画会や出前講座などがその事業です。井戸端会議の意見の中には、「子どもたちが与えられた時間の時

⑤幼児・学校教育、井戸端会議
幼児・学校教育のあり方などを議論します。(保育園・幼稚園・小学校・中学校の職員など)

③子ども・未来推進連絡会議

市役所内部の会議として、担当助役を中心に、市民社会挙げての議論の結果を踏まえ、市行政内部の連絡・調整と施策の具体案を検討しています。また「静かなる教育議論」を全体的に発展・展開していくため、各課に教育議論推進員を置き、職員間はもちろんのこと、あらゆる会議の場をとらえて参加者に教育にかかわる議論をしていただいています。

このほかいくつかの小・中学校では、学校評議員制度を設け、先生とPTA、そして地域の方といっしょになって、教育活動に対する意見を交わすなどの取り組みを行っています。今後、この学校評議員制度を導入する学校が次々に増えていく予定です。

間を生かしてほしい」、「自ら地域社会へ参加することににより、学校もまた今まで以上にいっそう地域と融合・協力関係を結んでいくことが求められている」など、完全学校週5日制に関するものが多くありました。

そこで平成14年度は、子どもたちが「何かやりたい」「学びたい」と思ったことに参加して活動できるようにし、子どもを対象とした学習・スポーツなどの講座、教室を新たに用意します。また、子どもを対象とした活動をしている団体・サークルなどの情報をまとめた「完全学校週5日



第1回子ども・未来市民会議の様子。各界関係団体の代表として46人が参加。小津市長を議長として、終始和やかな雰囲気の中にも、教育についての熱い議論が交わされました。

制対応学習カレンダー」を作り、学

校を過ぎて子どもたちに配布する」とを考えています。この情報を上手に利用して、お父さんお母さんや家族みんなで楽しんで、友達と一緒に教室やイベントに参加したり、新しい友達を増やしたりと、学校とは違った学習・活動・体験で、楽しく有意義な休日を通していきたいと思っています。これは、皆さんからいただいた多くの意見を参考に、教育委員会が目指していた事業が実現した二つの事例です。

静かなる教育議論はまだ始まったばかり。本当のうねりを起こすのはこれからです。教育は1日にしてなるものではありません。たとえ100年かかろうともじっくり腰を据えて、小田原の未来を担う子どもたちに「真の教育」を受け継ぐことが、私たちの役目なのです。

◎教育総務課 ☎33-1671

付いて、私の水イメジの源泉になつているのか、或いは私の内なる「足柄原」の水遣伝子の子せいなのか良く分らないのだが、今でも美しい水への執着は強烈である。柿田川湧水も忍野八海も梓川も、ただじつと水面を見つめていたいというそれだけで、ふっと思いついたように訪れた。ブナの大木に耳をあてるとゴウ／＼と水を吸い上げる音が聴こえるという話に魅せられて、矢も楯もたらず前期の白神山地にも出かけた。澄みきつて透き通るような湧水や清冽な流れをじつと見つめていて、まるで身も心も溶けてしまつて魂が引き込まれて行くような不思議な感覚に襲われる。誰もなつと度が過ぎていくのだから、自分ではちょっと度が過ぎていっていると思う。水の魔力に憑かれていっているのだろうか。水の魔力に守られ、水に生かされ水に育てられていられる。じつと耳をすますと、もしかしたら私の中をまるでブナのようにゴウ／＼と音を立てて流れている水の音が聞こえるかもしれない。





地域とともに生きる子どもたち

教育連載
vol.3

二宮金次郎生誕の地で 遺跡めぐり

椀井小学校

市内のすべての小学校で行われている「二宮尊徳学習」。椀井小学校で今年度取り組んでいるのは、3年生の子どもたちです。まちの探検や尊徳公館の見学を通して、二宮金次郎についての断片的な知識はあったので、3学期には「昔を見つかけよう」という学習を計画しました。

お招きした講師の先生は、相山の地に残る

郷土の偉人について学ぶことで、地域に生きる誇りを持ち、地域の自然環境を調べて、自分たちのできとことから住みよいまちづくりを考えたり、地域をテーマとした取り組みの中から、子どもたちは自分の生活を見つめ直しています。

二宮金次郎の遺跡を中心に、学校にある石碑や銅像についても、楽しくわかりやすく話してくれました。

小学校の中庭の噴水に掘られた5つの言葉の中には、「推諫二報徳」など、椀井小学校の子どもたちになじみのある言葉があります。椀井小学校では、病気で入院した友達へのお見舞い金として積み立てているお金を、「推諫金」と呼んでいるからです。先生の話を聞いて、「推諫」とは「自分から進んで、考えた中から困っている人を助ける」という意味であることと理解したようでした。また、体育館の前にある「稲小為大」という石碑の意味を、除草栽培地や油菜栽培地の説明から知りました。昔を知ることは、中庭の石像や運動場にある銅像を、足を止めて見直すきっかけになりました。そしてさっそく、校庭にある石碑や像を見て、触ったり、文字を声に出して読んだりしました。

数日後、二宮金次郎の遺跡めぐりに出かけました。坂口堤の石碑では、土手を上り下り下りた、大きな松の木を見上げたり、時代が大きく流れしてきたことを、体いっばいに感じたようでした。善栄寺では任職さんにお会いして、お話を伺うことができた。生家では、家中に入っただけの暮らしを思い、金次郎の姿を追い求めていくかのように、有意義な講話を聞き、実際にたくさんの方の遺跡を見たことで、二宮金次郎は「いい人だな」と実感した子どもたち。この相山は二

宮金次郎生誕の地でもあり、子どもたちの金次郎に対する理解と関心は、大いに高まりました。

椀井小学校教育課 ☎331684

大切にしよう、酒匂川の自然

富士見小学校・酒匂小学校・酒匂中学校

酒匂中学校区の3校の子どもたちにとって、酒匂川はとても身近な存在です。子どもたちは日々、川に生きる魚や鳥、植物の姿にふれて生活しています。

富士見小学校の6年生は、ある日学校の玄関で羽ったムクドリを見つけたことから、野鳥について勉強しました。一生懸命話をしましたが、なかなかムクドリは死んでしまい、子どもたちはがっかりしたのですが、そこから野鳥への関心が高まり、双眼鏡を手に酒匂川に足を運ぶようになりました。そして、「野鳥の空」の人の話を聞いたり、酒匂川にバードウォッチングに行ったりしてコアジサシに興味を持つと、「大事にして」と立て札や壁画や果箱を作ったりしてきました。

酒匂小学校の6年生は、5年生のときからヒメダカに飼って小田原メダカに飼いて小田原メダカに近いところまで育てようという池を作るなど、自分たちでできるこ

小田原 彩時記

特例市移行後 初の認可事業

板橋土地区画整理事業で起工式

◎都市整備課 ☎331592



起工式でくわ入れを行う小澤市長

小田原市が特例市に移行後、初めて認可した土地区画整理事業の起工式が、1月30日(木)、相模湾を望む板橋の丘陵地で行われました。式には小澤市長をはじめ、県議会議員や市議会議員、地元自治会関係者など、およそ50人が出席されました。

これまで、土地区画整理法に基づく認可申請は市を通じて県に行っていました。特例市になってからは認可業務を市ができるようになります。この板橋土地区画整理事業が、小田原市初の認可事業となります。

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。

教育特集号にちなんで、今回のテーマは、春のように若々しいパワーを持つ青少年です。10年先、100年先の小田原を作っていく子どもたちのためにしてあげられること、しなくてはならないことは何でしょうか。

◎教育総務課 ☎33-1671



教育、私はこう思う！
vol.4

テーマ「青少年と教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

未成年の喫煙飲酒について

中・高校生が自動販売機などで簡単にたばこ、ビール・酒を買い、くわえただけで平然としている。事件に巻き込まれることを恐れて注意できない大人も情けないが、明らかに法を犯しているのだから、絶対許さないことだ。

若者の未来について

礼儀正しさ、勤勉さなど、日本人が誇りにしてきた素晴らしい民族性や歴史、そして日本経済を支えてきた教育は

このままだと一体どうなってしまうのか、とても不安になります。今の若者たちが、前向きな気持ちで意欲的に生きていくにはどうすれば良いのでしょうか。「その国の若者を見れば、その国の将来がわかる」と言われています。日本の将来が心配です。

成人式について

何年も参列して疑問を抱いた式典。今年は大成功。立派。他市に胸を張って「小田原を見て！」と言える。やればできる。

素晴らしい若者たち。

「電話が友達」について

現代の若者は(大人も)。常に携帯電話を手離さない。列車やバスを待つ間や道を歩きながらもメールを送っている。一人が怖いのだろうか。

青少年問題について

青少年の非行や犯罪の原因は家庭教育にあると言われるが、愛情に飢えた心貧しいゆがんだ状態には、特效薬はない。地域社会が見守らなくては。

とを考へて活動してきました。そして、メダカの住める川にするために、「生活排水のろ過機を作って」「道路工事をやめて」「酒匂川の約束を決めて」と、多くの人に訴えていきたいと考えています。

酒匂中学校では、1年生の総合学習で、酒匂川下流の自然を知るために、河口から飯塚橋付近の河原や取水堰近辺を調査しました。

その結果、多くの鳥が暮らしていること、アレチウリなどの帰化植物が多く見られること、コイ・アユ・ウグイなどが泳いでいることなどを知り、大きな地図にまとめました。そこから、それぞれが個別にテーマを決め、研究を進めて学年の発表会で報告しました。

酒匂川をめぐる学習の中で、子どもたちは地域への思いを大きく育てています。



若い力を発揮する方向を誤まることなく、未来の小田原につなげていくために、皆さんも近くの人と気軽に話してみてください。

支所・連絡所などに置いてある「意見カード」でのご意見もお待ちしております。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/index.html>

小田原の特産品であり、日々の健康管理に欠かせないさまざまな効能を持つ梅干。関東三大梅干の一つである曾我の里で、県内唯一の品評会が今年も開かれました。

曾我の梅は品質のよさと作り手の風味が特徴。今年の奨励事實上輝いたのは、曾我別所にお住まいの穂坂キミエさんの梅干でした。

梅干の薬効と腐敗防止作用に目をつけ、梅干作りを奨励したのは北巻早雲。小田原の梅干人気は、時を経て更々盛っています。今年の梅干も、いい味に仕上がっています。



品評会で審査をする審査員

今年もできた
おいしい梅干！

小田原梅干コンクール、優秀賞決定

◎農政課 ☎33-1494

民家の蔵が「かふえ」に变身!

「住民と小田原TMOと行政による
画期的なまちづくり実験」

政策総合研究所

小田原市独自の試みである自治体版シンクタンク「政策総合研究所」の取り組みについて、シリーズでお伝えしています。

企画政策課 33-1-315

小田原遺産リストを共有財産に

政策総合研究所では、昨年から主に旧東海道周辺地域を対象として、小田原遺産調査を行っています。これは4つの大学の研究室と財団法人「ユナトラスト」の協力を得て実際にまちを歩き、小田原の歴史・産業・生活の文化などを象徴し、後世に継承すべき資産(小田原遺産)をリストアップする作業を中心としています。そしていよいよ小田原遺産のリストがまとまりつつあります。しかし、研究所がリストアップした遺産を「小田原遺産」と呼ぶのはまだ早いのです。なぜなら、そこにはまだ地元の人の知恵や意思が反映されていないからです。遺産を光り輝くものは、子や孫の代まで受け継いでいくには、地元の皆さんがその価値に気づき、守り育て、誇りにしていくことが大切です。そして、ほかに眠っている遺産はないか、これらの遺産をどのように保存・活用するかなど、皆さんが小田原遺産

を共有の財産としてさらに充実させ、これからのまちづくりに積極的に生かしていくことが不可欠なのです。

板橋エリアの可能性

そこで小田原遺産調査エリアの中の「板橋」を舞台に、地元の皆さんと小田原TMO(小田原商工会議所が担う中心市街地活性化を目的とした民間まちづくり機関)と研究所が連携し、ある一つの実験を行うことにしました。それが「板橋・蔵かふえ」です。

板橋という地名は、この地区を流れる小田原用水にかけられた「板の橋」に由来すると言われていています。この地域は、国道1号や旧東海道沿いなど比較的標高の低いところでは、職人や商人の文化を色濃く残す「なりわい」が盛んな地域であるのに対して、丘陵部には益田孝・松永安左衛門・山縣有朋・大倉喜八郎といった、政財界の大御所による別邸建築が目立つ、閑静な地域となっ



この「蔵かふえ」を考案したのは、研究所の板橋調査に参加している東京大学の研究室と学生の皆さん。学生たちの情熱とアイデアが感じられますね。
(イメージ図・左の写真は現在)

いるのが特徴といえます。
この板橋には、古くから残る蔵や古建築などが豊富に残っています。そこでこの蔵などを美観的に使わせていただき、そこを舞台に研究所や地元の方皆さん、また観光客などが一体になってこの地域に光を当てることができないかと考えたのです。

民家の蔵が「かふえ」に変身!

3月30日(土)・31日(日)の11時〜16時に、地蔵堂通り(旧東海道)沿いにある蔵をお借りして、「板橋・蔵かふえ」を開きます。蔵の外にはいすやテーブルを並べ、雰囲気のあるオープンカフェを作り、飲み物を提供し

翼をひろげ、大空へ羽ばたけ!

地域政策フォーラム開催

「SKY圏構想」の実現へ

小澤市長の提唱した、富士箱根伊豆国立公園を舞台に展開する新たな交流圏づくり(仮称)21世紀SKY圏構想。SKYの「S」は静岡、「K」は神奈川、「Y」は山梨を表します。日本のシンボルである富士山をはじめ、世界に誇れる国内有数の観光資源を持つ三つの地域が、豊かな自然と都市としての魅力が共生する圏域づくりを目指し、今後新たなパートナーシップを築いていきます。

企画政策課

☎33 1 2 5 4



第2回 富士箱根伊豆交流圏市町村サミット

～富士箱根伊豆の魅力を活かした広域的な振興策、連携策～

富士箱根伊豆国立公園小笠原市・アークワーク会議
山梨 静岡 神奈川 山梨広域振興協議会



1月28日に行われた、富士箱根伊豆交流圏市町村サミットの様子。
圏域を越えた新しい連携をそれぞれが誓い合いました。

ます。また蔵の1階にもテーブルを置き、サロンスペースを作って展示スペースを設け、板橋にまつわる話々の宝物を展示する予定です。
「板橋・蔵かふえ」は、まちづくり実験の拠点となる仮の店舗です。地元自治会では、研究所が調査した板橋遺産リストに加える必要があるものや、まちづくりへの遺産の生かし方などを記入するアンケートを、板橋地区の家庭に全戸配布しました。アンケートはここで回収され、遺産リストに加えられます。これによって遺産リストは、住民の皆さんと研究所の合作として完成するのです。また両日は、地元の方皆さんと小田原T.M

Qと研究所が企画した、まちづくりイベントを行います。実際に板橋を歩いてみたい人を案内する「まちあるきガイドツアー」や、小田原の歴史変遷などを語る朗読会などの案も出ています。このように、地元の方々と小田原T.Mと研究所が一体となって企画を練り上げ、まちづくりの新しい「協働」イベントを行うのは画期的なことです。これからのまちづくりの新しい形を提唱する実験であるとも言えます。

※イベントの詳細内容は、広報おだわらいふ3月15日号でお知らせします。お楽しみに。

地域政策フォーラム

『世界に誇れる新たな広域田園都市圏』
「SKY圏構想」の実現に向けて

県西地域2市8町(小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町)と神奈川県とが組織している県西地域広域市町村圏協議会では、(仮称)21世紀SKY圏構想の実現に向けて、国土交通省との共催によるフォーラムを開きます。
日時 3月27日(木) 13時15分～
場所 小田原市中央公民館

内容 基調講演、学識経験者・国土交通省職員・自治体首長らが参加するパネルディスカッション
テーマ 静岡県・山梨県と連携した新たな広域圏の創造や、国土政策からの富士箱根伊豆地域の今後の地域づくりについて

申込 3月20日(水)まで、

県西地域広域市町村圏協議会事務局
(小田原市企画政策課内) ☎33 1 2 5 4



「我ら小田原応援団！」小田原評定衆からのメッセージ<最終回>

各地で小田原の情報や魅力を発信してくださっている「小田原評定衆」の皆さん。

今回は、4月に小田原でコンサートを開く、

ドイツ・チュービンゲン市の青少年シンフォニーオーケストラにかかわりのあるお二人です。

市民交流課 ☎33-1706

●ドイツ人も日本人も変わらない

永長 ブレック 利里さん

ドイツ在住、音楽家(フルート奏者)



「私はアマチュアの音楽交流を手伝っています。数年前には、小田原の皆さんのご協力で、ドイツ・ロッテンブルク市のプラスバンドが交流させていただきました」という永長さんとのご縁で、今回チュービンゲン市のオーケストラが来原することになりました。「前回参加したドイツの人たちは、小田原の人たちの親切心、自分たちの日本に対する無知さ、そして民間レベルで知り合うことの大切さを感じたようです。今回もこの交流を通して、ドイツと日本との理解が深まり、小田原の皆さんには、ドイツ人も日本人とあまり変わらないんだと感じていただければ幸いです」。

●みんなで協力し合って、大きなことをしよう

白井 英治さん

二宮町在住、ヴァイオリニスト、
小田原ジュニア弦楽合奏団団長



小田原とのかかわりは、中学2年のころに小田原フィルハーモニー交響楽団へ入団して以来という白井さん。「文化活動をしていると、もっと横のつながりがほしいと感じることが多いです。地元の産業や文化を通して、お互い横の連携がもっととれてまとまることができたら、小田原はすごく大きなことができるまちだと思います。今回のチュービンゲン市のオーケストラの受け入れでは、実行委員会の委員長をさせていただきますが、お互いに協力し合って、すばらしいコンサート、そして交流ができれば」と抱負を語ってくれました。

ドイツ・チュービンゲン音楽学校附属シンフォニーオーケストラ コンサート情報

ドイツの青少年音楽コンクールで何度も1等賞を受賞するなど、ドイツ国内でも高い評価を受けているオーケストラの、美しいハーモニーを堪能するチャンス！

チュービンゲンの皆さんは、小田原に滞在し、ホームステイをしながら、市内散策やワークショップなどで市民の皆さんと交流を深めます。

○市民ロビーコンサート

日時 4月2日(火)

12:20～12:50

場所 市役所2階市民ホール

※来場自由。

○ジョイントコンサート

日時 4月3日(水) 18:30～

場所 市民会館大ホール

※小田原ジュニア弦楽合奏団ほか、市内音楽団体の皆さんとのジョイントコンサートです。市民交流課はかでチケット(1,000円)好評発売中！



入賞作品は、「防災週刊」の周知や防災白書などに活用される予定です。

小田原は、大きな地震が起こる可能性が高いとされていることから、地震災害に関心があるという鈴木さん(災害時には、家族が一緒にいられるとは限らないので、そういうときにはどうしたらいいかを言うから家族で考えてほしいな)と思っ、こういうデザインにしました。両親と妹が、ポスターをとって協力してくれました。

小田原は、大きな地震が起こる可能性が高いとされていることから、地震災害に関心があるという鈴木さん(災害時には、家族が一緒にいられるとは限らないので、そういうときにはどうしたらいいかを言うから家族で考えてほしいな)と思っ、こういうデザインにしました。両親と妹が、ポスターをとって協力してくれました。

ポスターコンクールで

防災担当大臣賞 受賞!



鈴木 恵美里さん
城山中学校 1年



古稀庵詠草

「椿山集」より

山縣有朋



山縣有朋：1838（天保9年）～1922（大正11年）
長州藩士として戊辰戦争に参加し、維新政府の創立に貢献し陸軍中將、陸軍卿（陸軍大臣）など陸軍進歩を志したが、明治22年内閣総理大臣、明治26年枢密院議長などとして権力を振るった。

板橋村の人々世にも稀なる大石を葺庵に引入れければ

村人のちからあはせて我庵の庭にすまふ。この兜石

小田原城山の南麓に葺庵を結びて古稀庵と名づけてすみける頃
うちわたりす相模の海を池にしてあつく箱根は庭の葉山



茅葺切妻四脚門 山縣有朋の筆による古稀庵の額が掛かる。



歌碑 庭には有朋白詠白筆の歌碑が5基配置されている。奥に見えるのが兜石。

明治40年、山縣有朋は、小田原・板橋に美しい庭園を有する別邸を建てました。この年に70歳（古稀）を迎えた有朋は、ここを「古稀庵」と名付け、大正11年にじくなるまでの晩年の15年間を、ほとんどここで過ごしました。

古稀庵の庭園には、有朋独自の庭園観が生かされ、風祭に水源地を設けてそこから引いた水で池を作るなどの工夫が凝らされており、同じく有朋の所有であった目白の椿山荘、京都の無隣庵とともに、近代日本庭園の傑作と言われています。

また、この古稀庵には、有朋が自慢するものが二つあったと言われています。一つは、豊臣秀吉が小田原攻めの際に築いた一夜城跡のある石垣山が附近に眺められるということ、もう一つは、庭に軍人松と兜石があることでした。軍人松は、古稀庵建設の折、小田原の在郷軍人たちが城山から移したもので、兜石は板橋村の人々が巨石を運んで期えたものです。有朋は、この小田原の人々の気持ちに感激し、来客との座談が庭の風景におよぶと、必ずこの二つを自慢したと伝えられています。

有朋は、古稀庵に住んだ15年の間に多数の歌を詠みましたが、その代

表的なものが遺詠集の「椿山集」に収められています。今回紹介した二首は、自慢の兜石と箱根からのすばらしい眺望を歌ったもので、有朋の、板橋の人々へ感謝の気持ちやこの地に対する誇らげな気持ちが伝わってきます。

明治20年に新橋・国府津間の鉄道が開通し、翌21年に国府津・小田原・湯本間の馬車鉄道が敷設されたことを契機として、伊藤博文の遺浪間に始まる小田原の別荘時代は、明治35年の大海潮（大正博覧会）によって打撃を受けましたが、古稀庵建設によって再び別荘全盛時代を迎えます。実業家であり茶人としても活躍した田代孝（鈍翁）、野崎康太（幻庵）、陸軍大將大島義昌、海軍大將瓜生外吉、男爵大倉八郎ら鈔々たる人々が居を構え、昭和に入つては「電力の鬼」松永安左エ門、耳庵が板橋の老荘に転居してました。

これらの別邸や付随する茶室の中には、松永記念館・老樗荘・葉雨庵（野崎幻庵の自給荘から移設）のように、保存や移築などにより保存整備されているものがあります。時代を動かしただ巨人たちも他はせぬ別邸と、旧東海道の雰囲気を感じ出す生業のまちなみを今に残す板橋界隈。ときにはじっくりと味わってみてはいかがでしょうか。

古稀庵
公開日 毎日曜日 10時～16時
入園料 100円（全額ふるさと文化基金に寄付されます）
◎あおい保険小田原研修所
☎2356115

このコーナーでは、読書・絵画・写真・小説・詩など、小田原に関わる作品を一つ一つ紹介しています。小田原の歴史や文化について詳しく知りたい方は、小田原市立博物館までお問い合わせください。☎33-1221

輝く小田原人

150分の1の「箱根駅伝」

石井 清和寿さん

関東学院大学 経済学部経済学科3年次生

伝統ある「箱根駅伝」は、小田原にとっては欠かせない正月の風物詩であり、長距離ランナーにとってはあこがれの舞台である。毎年さまざまなドラマを生んでいる「箱根」に出場できるのはわずか15校。走れるのは150人だけだ。この大会に出場するという夢をかなえた石井さんには、箱根に寄せる思いを聞いた。

箱根町仙石生まれの石井さんにとって、箱根駅伝はとても身近で、あこがれの存在だった。「小さいころから、父親に連れられて芦ノ湖のゴールまで応援に行っていました。いつかは、小田原や箱根を通る区間を走ってみたいと思っていました」。

体を動かすのが好きな石井さんは、中学生時代はサッカー部に所属していた。しかし顧問の先生から、高校に行ったら陸上をやることを勧められる。「大会などがあると呼ばれて、陸上の選手として競技していたので、そっちの方が向いていると思われたのかもしれない」。サッカーには向いていないのかと少しショックも受けたが、先生の言葉に心が動いた。「陸上をやったら、箱根を走れるかもしれないぞ」。

石井さんは相洋高校に進学し、長距離を専門に陸上を始めた。そして、「箱

根を走りたくて」関東学院大学に進学する。箱根駅伝に出ることを目標に練習を積み重ね、ついに予選会を突破。「箱根で勝負してみたい」というチームの願いがかなった。

関東学院大学陸上競技部に在籍する長距離選手39人の中から、中田監督は、石井さんを最終10区に起用した。「10区は距離が長く、気温の高い時間帯に走る区間。成績に波がある選手は向かないんですよ。自分のペースが守れ、タイムが安定しているところを監督は買った」。

沿道の応援は想像以上だった。「沿道側の耳が痛くなるくらいで、途中からセンターライン寄りに走りました」。アンカーの重責を全身に感じながら、自分の力を出し切ることを考え、チームの順位を一つ上げて、ゴールテープを切った。「これで終わったんだ」。しか



箱根町仙石生まれ。高校時代バスで通学していましたが、道路が濡れと降るのに2〜3時間かかっちゃうんです。それで、バスから降りて走って帰ったこともありました。



小田原市長に結果を報告。左から、石井さん・駒形英也主将・中田盛之監督・小澤市長。

し石井さんには悔いが残った。「走れたのはうれしかったんですけど。シード権争いの勝負に加わりたかった」。

今、新しいチームで来年の箱根駅伝を走れるようにと、練習を行っている。「あと1年陸上ができる環境があるので、毎日を大事に過ごそうと思います。来年もぜひ本戦に出場したいです。そしてシード権を獲得するのが目標です。毎年出られて当たり前になるようにしたいですね」。

今は箱根駅伝のことしか考えられないという石井さん。勝負はすでに始まっている。



10区を力走する石井さん



今月下旬には、桜の便りが届きます。清楚な梅と咲き乱れる桜、どちらも小田原が生み出す素晴らしい風景です。

小田原 彩時記

春の訪れを満喫 小田原梅まつり

恒例の梅まつりは、今年も大人気。全国から大勢の人が、春を告げる小田原の梅を楽しみました。一面が白く染まった鹽辻梅林からの、富士山を望む梅花の景色に皆うっとり。今年もまた大勢の小田原ファンを全国に増やしたことでしよう。ちょうど「小田原梅わいん」の10万本達成キャンペーンが梅まつり会場で行われたこともあって、梅商品の売れ行きも上々です。

常盤木門が 美術館に 変身?

小田原城ミュージゼ・アールヌーヴォー・
アールデコ特別展

日本古来の建築物で、西洋の骨董品を展示するという珍しい企画を、公益事業協会主催で行います。今回展示されるのは、美術収集をしている方からお借りした貴重な作品の数々。150点ほどのコレクションの中から、常時45点ほどを展示してまいります。どれも今まで表舞台には出たことがないという、必見のコレクションです。3か月ごとに展示品を取り替えて企画展を行う予定ですので、お見逃しなく。

3/17回 から **9:00~17:00**
(3月17日のみ9:30~17:00)

場所 小田原城常盤木門

入場料 大人800円・小中学生400円
問 小田原城ミュージゼ ☎22-3823



ガレール硝子 浮彫
桜文水指し
高さ27.5cm 直径14.5cm
2層被せガラス
グラヴール サリッシュール
アプリカッション

「アールヌーヴォー」とは?

フランス語で「新しい芸術」という意味で、19世紀末から20世紀初頭にかけて、ヨーロッパを中心に流行した芸術様式です。植物など自然界のもつ曲線をモチーフとし、流麗なラインや優美な装飾に特徴があり、当時流行の東洋趣味も加わった幻想的な作品も多くあります。熟練職人の手作業による複雑で高度なデザインと作成技術に支えられていて、世界中で高い評価と人気がありますが、生産量が少なく、また隆盛した期間が短いために、入手が困難で高価なものが多いです。

「アールデコ」とは?

1925年にパリで開かれた装飾美術国際博覧会の略称から名付けられ、「装飾的な芸術」という意味です。美しい曲線のアールヌーヴォーとは対照的なデザイン様式で、ジグザグ、同心円、基本パターンの反復といった、抽象的で幾何学的な形状と模様や、色彩のコントラストに特徴があります。博覧会を機に、1920年代後半から1930年代の終わりにかけて流行しました。1960年代以降にまた見直され、現在も高い人気があります。

アンティークへようこそ



ドーム硝子
チュリップ型スタンド
高さ62.5cm 直径20.0cm
3層被せガラス マルトレ



ドーム硝子
メガイェット ランプ
高さ47.0cm 直径33.0cm
2層被せガラス グラヴール



ドーム硝子 浮彫
シクラメン花瓶
高さ39.5cm 直径10.0cm
2層被せガラス グラヴール
アラール シスレ



ドーム硝子 浮彫
アイリス花瓶
高さ28.7cm 直径12.5cm
3層被せガラス
グラヴール アラール
モレット シスレ

同時開催!

小田原城天守閣 新規収蔵資料公開

3/17回 ~ **5/12回**

場所 小田原城天守閣

入場料 大人400円・小中学生150円

問 小田原城天守閣 ☎23-1373

上記特別展の開催に合わせ、小田原城にある未公開資料を展示します。天守閣に長年展示されていた「文久回」は、幕末期の小田原城とその城下町を細かく描き、城下町園の頂点を示す絵図として知られていて、歴史的な価値のある優れた絵画資料です。痛みがひどくなったために製作していた複製が完成しました。ほかに、新出の「北条氏直書状」や「稲葉正則書状」を公開予定です。